

# 社会参画の視点を取り入れた 身近な地域の調査 ～減災マップのICT化を通じて～

東京都墨田区立文花中学校 こうえん 高圓省三

## 1 社会参画の学習とICT\*1教育の充実

今回の学習指導要領の改訂の目玉の一つが社会参画に関する学習の重視である。

中学校学習指導要領解説社会編（平成20年9月）には、次のような指摘がある。『このような社会参画の態度を養うことは、社会科の究極の目標である公民的資質の基礎を養う意味からも大切であり、地理的分野の学習において生徒が生活している地域に対する理解と関心を深め、その発展に努力しようとする態度を育てることを重視する必要がある。以上のような考えに基づいて、内容の(2)の「エ 身近な地域の調査」の中で、社会参画の視点を取り入れた調べ学習を行うこととした。(p.10)』その点を踏まえ、身近な地域の調査は世界と日本の様々な地域を学習したあとに位置づけられた。このことで既習知識、概念や技能を生かすとともに、地域の課題を見出し考察するなどの社会参画の視点を取り入れた探究型学習を地理的分野のまとめとして行うこととした。そして、スムーズに公民的分野の学習へと移行していくのである。さらに、『指導に際しては、コンピュータや情報通信ネットワークの積極的な活用が期待される。(p.128)』という指摘がある。

\*1 Information and Communication Technologyの略。情報コミュニケーション技術、情報通信技術と訳す。

## 2 指導の流れと実践例

前任校墨田区立墨田中学校での実践例を報告する。

① 生徒にとって「身近な地域」で起こっている、また、起こることが想起されるであろう災害について生徒の目線で考えさせ、それに基づき組ごとの減災マップの調査課題を設定させる。

【減災マップの記載基準：実践例では

1年A組建物マップ／災害の際の避難場所、災害の際崩れそうな建物、家の密集している地域、災害の際落ちてきそうな物（ブロック塀等）

1年B組人災マップ／見通しの悪い交差点、こども110番の家、人通りの多い道、暗い道

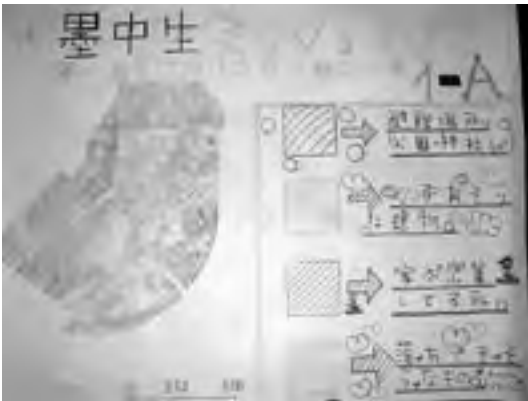
1年C組火災マップ／木造の家、消防団の倉庫、防火水槽、消防車の通れない狭い道、消火器、消火栓】

② 組の調査課題について、1：2,500の地図に表現する内容、表現方法（面的記号、点的記号など）を話し合わせる。

③ 1：2,500の地図を6分割し、組を6班に分け、班単位で調査活動を実施する。

【実践時は土日などの休日を使い班ごとに調査活動。総合的な時間を活用することも考えられる】

※事故に合わないよう事前指導の徹底、また



1年A組 建物マップ



1年B組 人災マップ



1年C組 火災マップ



エリアマップ

墨田区社会福祉課による「地域・地域交流」推進事業  
墨田中学校ふれあい学習発表会

日時 7月12日(水) 13:45～15:30  
会場 墨田中学校・体育館  
〒112-8502 TEL:03-5621-0081

「墨中生の授業・疑問に合わせた教材編み」を  
地域のみなさんと一緒に学びましょう!

1. 墨中生の先生作成『疑問マップ』の発表  
2. フォーラム「地域の疑問について共に考えよう」  
——墨中生・保護者・地域のみなさん・関係者・墨中生の先生——

疑問って、何に?

墨田中学校ふれあい学習発表会  
墨田区社会福祉課  
墨田区社会福祉課  
墨田区社会福祉課

主催 墨田区社会福祉課・墨田区環境都市生活部  
共催 墨田区社会福祉課・墨田区環境都市生活部  
協賛 墨田区社会福祉課・墨田区環境都市生活部  
墨田区社会福祉課・墨田区環境都市生活部  
墨田区社会福祉課・墨田区環境都市生活部

墨田中学校ふれあい学習発表会

東京新聞2005.7.13 (朝刊)



防災訓練中学生参加ポスター

地域や保護者の方々にも調査活動のことを周知徹底する。

- ④ 6分割した地図を貼り合わせ、完成した減災マップを観察しながら、気がついたことを発表していく。
- ⑤ 学年で完成した3枚の減災マップを発表し合う。【総合の時間などを活用する】そして、3枚の減災マップを比較・関連させながら、エリアマップを作成し、生徒の目線で学区域の特色を把握させる。
- ⑥ 実践例の発表では総合の時間を活用した。さらに、あるテーマについて学校と地域がともに考え行動しようという趣旨で企画している墨田中学校ふれあい学習発表会に参加した。これは学校と墨田区保護司会が共催し、警察、消防、町会、PTA、青少年育成委員会も参加し、今回は特別ゲストとして、墨田区長山崎昇氏、元国土地理院長星埜由尚氏も招かれた。

- 1部：墨中生成成『減災マップ』の発表
- 2部：フォーラム「地域の減災について考えよう－墨中生・保護者・地域の人々・消防署・警察署との協働－

フォーラム時に町会長から墨中生に対して墨田区災害弱者サポート隊への勧誘があった。この災害弱者サポート隊は日ごろから高齢者宅を訪問しコミュニケーションをはかり、いざ災害のときには、高齢者の方々の救助活動を行うものである。さらに、将来的には高齢者の方々の分布を減災マップに反映し、いざというときに役立てていこうとするものである。

このサポート隊は、「減災マップ」で生徒たちが考えたことを、災害弱者をどうサポートするかという行動に発展させるものである。その後、墨中生の何人かがこの災害弱者サポート隊に入った。

- ⑦ 墨田中学校ふれあい学習発表会を受けて、防災訓練中学生参加ポスターが作成された。
- ⑧ 2005年、第3回フィールドワーク in JAPAN(FIJ)<sup>\*2</sup>での墨中生による発表を実施した。FIJは全国中学校地理教育研究会が主催する全国中学生の地域調査発表会である。主題は墨中生ミッション『減災』に向けた取り組み－『減災マップ』づくりを通じて－である。
- ⑨ 2007年、第5回フィールドワーク in JAPAN(FIJ)での墨中生による発表を実施した。主題は「減災マップの電子化」である。墨田中学校ふれあい学習発表会において高齢の町会長から課題提示があったことが、そのきっかけだった。「関東大震災、東京大空襲を経験してきたこの地域で、中学生が活躍するのは大変すばらしい。この地域のことを真剣に考えてくれる教員に初めて出会った。で



ITC火災マップ



ITC人災マップ

地理

歴史

公民

地図

社会科

も、この減災マップはわれわれ高齢者にとっては色鉛筆での表現なので薄くて見づらいね」と。その解決策として、小堀昇氏（日本地図センター地図研究所主幹研究員）から減災マップのICT化を勧められたのである。

生徒たちは、自分たちがつくった「建物マップ」「人災マップ」「火災マップ」を電子化することによって、より見やすく活用しやすい「減災マップ」を作成した。

そして災害弱者サポート隊での活動でわかった1人暮らしの高齢者の分布図を加えることによって、弱者救済という社会参画の視点を持つことになった。

### 3 まとめとこれからの私の課題

#### ①『減災マップのICT化』への疑問

「高圓の指導だからできるのだろう」

答；ICT化は一つのミッション、紙ベースの「減災マップ」に生徒が挑めばよい。大切なのは生徒が実際に身近な地域に出て、調査活動を行うことである。

「下町という地域だからできたので、山の手ではどうかな？」

答；コミュニティの希薄な地域ほど、地域を動かすために減災マップは威力を発揮

する。

「農村地域や山村地域、過疎地域などでもできる？」

答；阪神淡路大震災、中越地震、中越沖地震、そして、日本中どこでも災害が起きている。「減災マップ」は日本中どの、どんな地域の中学生でも取り組むことができる。

#### ②高圓省三's Mission

まずは、「墨田区内中学生の手による墨田区減災マップ」を作成する。そして、日本全国の中学生による「47都道府県中学生減災マップ」を作成していく。それぞれの地域の中学生の目線で調査項目を設定し、身近な地域をフィールドワークし、減災マップを作成、地域の人々に提案して、地域の高齢者と交流を深め、いざというときには高齢者を背負い避難所へ！ という光景が日本中に普及することめざしたい。中学生の生きる力が、昭和30年代の日本各地に存在した地域のコミュニティを復活させる。

\* 2 第8回フィールドワーク in JAPAN(FIJ)は2010年3月6日(土)江東区教育センターにて開催される。問い合わせは、全国中学校地理教育研究会高圓省三(東京都墨田区立文花中学校)まで。なお、FIJについては、マイクロソフト社HP(<http://www.microsoft.com/japan/showcase/sumida-jrhigh.msp>)参照。